

# 平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年1月29日

上場会社名 神東塗料株式会社  
 コード番号 4615 URL <http://www.shintopaint.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 宮脇 一郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役(経理担当) (氏名) 波多野 健  
 四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日  
 配当支払開始予定日 —

上場取引所 大

TEL 06-6429-8474

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	14,200	△13.6	297	25.1	374	△8.6	196	△12.1
21年3月期第3四半期	16,436	3.2	238	△60.6	409	△45.2	223	△48.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	6.35	—
21年3月期第3四半期	7.22	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	31,832	12,110	37.3	383.14
21年3月期	32,171	11,989	36.6	380.70

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 11,873百万円 21年3月期 11,778百万円

## 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	0.00	0.00	0.00	4.00	4.00
22年3月期	0.00	0.00	0.00		
22年3月期 (予想)				4.00	4.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,000	△6.2	370	△4.7	510	△16.2	250	△16.6	8.07

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無  
新規 一社 (社名 ) 除外 一社 (社名 )

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有  
(注)詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 有

(注)詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 31,000,000株 21年3月期 31,000,000株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 10,857株 21年3月期 10,607株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第3四半期 30,989,226株 21年3月期第3四半期 30,990,269株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通しの将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 3. 「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## 【定性的情報・財務諸表等】

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の景気対策やアジア向けを中心とした輸出の持ち直しにより、最悪期を脱し、緩やかな回復基調が続いておりますが、本格的な回復基調に戻るまでにはまだかなりの時間を要するものと予測されており、企業の設備投資の減少や雇用環境はまだまだ厳しく、先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社グループにおきましては、こうした厳しい経済状況の中で新製品の開発による積極的な販売活動に取り組み、格段の経費削減努力を重ね、コスト競争力の一層の向上を目指して取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は14,200百万円（前年同四半期比13.6%減）となりました。損益面では、営業利益は297百万円（前年同四半期比25.1%増）、経常利益は374百万円（前年同四半期比8.6%減）、四半期純利益は196百万円（前年同四半期比12.1%減）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

## （塗料事業）

IU（工業用）塗料分野では、アルミ電着塗料は不況の影響により、国内のビル建設工事、一般戸建住宅着工の減少が続いており、アルミ建材市場では事業撤退や再編成などの大きな変化の時期を迎え、その影響により、売上は減少いたしました。工業用電着塗料は、一部の自動車関連や電気部品関連に回復の兆しが見られるものの、主力の鋼製家具やプレハブ住宅、公共関連製品などは依然として低迷しており、数量、売上とも減少となりました。粉体塗料は景気低迷の影響を受け、既存需要が落ち込み、売上は低調に推移しました。工業用塗料は一部のユーザー向けは前年比プラス基調となりましたが、工作機械ユーザーの減産が響き、売上は大幅な減少となりました。

汎用塗料分野では、建設用塗料は慢性的な不況感から設備投資等の内需が低迷しており、大型プロジェクト（橋梁・プラント）の受注が不振だったため、売上は減少となりました。道路施設用塗料は溶融材は減少しましたが、ペイント区画線、カラー舗装材、すべり止め及び段差補修材が堅調に推移し、売上は増加となりました。樹脂応用製品の売上については、スラブ補修材が好調に推移しましたが、主力の環境対応型商品である道床安定剤が減少し、前期並みの売上に止まりました。

自動車用塗料分野では、自動車生産が回復し、塗料販売も7月以降上昇に転じておりますが、前期実績までは及ばず、売上は減少しました。

この結果、塗料事業の売上高は12,896百万円（前年同四半期比14.3%減）、営業利益は250百万円（前年同四半期比31.4%増）となりました。

## （化成品事業）

受託生産している化成品の売上高は1,304百万円（前年同四半期比5.7%減）、営業利益は47百万円（前年同四半期比0.4%減）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(総資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、受取手形及び売掛金が前連結会計年度末に比べ215百万円増加し、棚卸資産が190百万円、有形固定資産が294百万円減少したこと等により31,832百万円（前連結会計年度末比339百万円減）となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、支払手形及び買掛金が358百万円増加し、長短借入金及び社債が425百万円、その他社外預り金が217百万円減少したこと等により19,722百万円（前連結会計年度末比460百万円減）となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、利益剰余金が72百万円増加したこと等により12,110百万円（前連結会計年度末比121百万円増）となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、1,190百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、767百万円となりました。その主な要因は、税金等調整前四半期純利益371百万円及び減価償却費474百万円の収入等によるものであります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、△270百万円となりました。その主な要因は、有形固定資産の取得による支出222百万円等によるものであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、△557百万円となりました。その主な要因は、長期・短期借入れによる収入900百万円、長期・短期借入金の返済による支出1,275百万円、配当金の支払による支出123百万円等によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年3月期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)の連結業績予想につきましては、平成21年10月30日に公表しました業績予想に変更はございません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

**【簡便な会計処理】**

（棚卸資産の評価方法）

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、第2四半期連結会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

（固定資産の減価償却費の算定方法）

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

**【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】**

（税金費用の計算）

税金費用の算定に関しては、第3四半期連結会計期間を含む年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。なお、法人税等調整額は法人税等に含めて表示しております。

(3) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

**【ロイヤリティーの会計処理方法の変更】**

技術供与先から受け取るロイヤリティー収入については従来は営業外収益の「受取ロイヤリティー」に計上しておりましたが、第1四半期連結会計期間より売上高に含めて計上する方法に変更しております。

この変更は今後のユーザーの海外への生産移管等の拡大にともない、受取ロイヤリティーの重要性が増すことから、当社グループの営業活動の成果を明確に表示するために行ったものであります。

この変更により、従来と同一の方法によった場合に比べ、売上高、売上総利益及び営業利益は61百万円増加しております。なお、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。

**【表示方法の変更】**

（四半期連結損益計算書関係）

前第3四半期連結累計期間において、営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました「受取賃貸料」は、営業外収益総額の100分の20を超えたため区分掲記しました。なお、前第3四半期連結累計期間の営業外収益の「その他」に含まれる「受取賃貸料」は30百万円であります。

5. 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,220	1,280
受取手形及び売掛金	6,450	6,234
商品及び製品	1,537	1,703
原材料及び貯蔵品	518	543
その他	292	391
貸倒引当金	△28	△30
流動資産合計	9,990	10,122
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,916	3,049
機械装置及び運搬具（純額）	737	869
土地	16,491	16,491
その他（純額）	199	228
有形固定資産合計	20,345	20,639
無形固定資産	240	258
投資その他の資産		
投資有価証券	744	653
その他	518	499
貸倒引当金	△6	△2
投資その他の資産合計	1,256	1,150
固定資産合計	21,842	22,049
資産合計	31,832	32,171
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,920	5,561
短期借入金	3,128	3,191
1年内償還予定の社債	100	100
未払法人税等	73	63
賞与引当金	88	164
その他	632	957
流動負債合計	9,942	10,038
固定負債		
社債	—	50
長期借入金	3,300	3,612
再評価に係る繰延税金負債	5,114	5,114
退職給付引当金	779	769
役員退職慰労引当金	6	8
負ののれん	16	21
その他	562	567
固定負債合計	9,779	10,144
負債合計	19,722	20,182

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,255	2,255
資本剰余金	585	585
利益剰余金	2,382	2,309
自己株式	△1	△1
株主資本合計	5,220	5,147
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△1	△18
土地再評価差額金	6,725	6,725
為替換算調整勘定	△70	△76
評価・換算差額等合計	6,652	6,630
少数株主持分	237	210
純資産合計	12,110	11,989
負債純資産合計	31,832	32,171

(2) 【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	16,436	14,200
売上原価	13,319	11,234
売上総利益	3,116	2,966
販売費及び一般管理費		
発送費	458	386
広告宣伝費及び販売促進費	84	81
従業員給料及び手当	816	779
賞与引当金繰入額	50	38
退職給付費用	140	134
減価償却費	106	93
試験研究費	127	110
その他	1,095	1,041
販売費及び一般管理費合計	2,878	2,668
営業利益	238	297
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	8	9
受取ロイヤリティー	66	—
受取賃貸料	—	30
持分法による投資利益	109	78
その他	75	30
営業外収益合計	260	149
営業外費用		
支払利息	70	66
その他	18	6
営業外費用合計	88	72
経常利益	409	374
特別利益		
固定資産売却益	27	—
特別利益合計	27	—
特別損失		
固定資産除却損	20	2
特別損失合計	20	2
税金等調整前四半期純利益	416	371
法人税等	155	139
少数株主利益	37	35
四半期純利益	223	196

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	416	371
減価償却費	509	474
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△4	1
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△121	△76
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△3	—
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	16	10
受取利息及び受取配当金	△9	△10
支払利息	70	66
持分法による投資損益 (△は益)	△109	△78
投資有価証券評価損益 (△は益)	4	—
有形固定資産売却損益 (△は益)	△27	—
有形固定資産除却損	20	2
売上債権の増減額 (△は増加)	△695	△220
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△140	190
仕入債務の増減額 (△は減少)	635	351
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△43	6
その他	△491	△210
小計	25	879
利息及び配当金の受取額	30	51
利息の支払額	△63	△57
法人税等の支払額	△341	△106
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△349</b>	<b>767</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△224	△222
有形固定資産の売却による収入	553	—
投資有価証券の売却による収入	1	1
関係会社株式の取得による支出	—	△6
長期貸付けによる支出	—	△51
長期貸付金の回収による収入	1	0
その他	△93	7
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>238</b>	<b>△270</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	1,535	400
短期借入金の返済による支出	△463	△625
長期借入れによる収入	—	500
長期借入金の返済による支出	△559	△650
社債の償還による支出	△50	△50
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△154	△123
少数株主への配当金の支払額	△9	△9
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>299</b>	<b>△557</b>
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	188	△60
現金及び現金同等物の期首残高	1,101	1,250
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,290	1,190

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

	塗料事業 (百万円)	化成品事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高	15,053	1,383	16,436	—	16,436
営業利益	190	47	238	—	238

(注) 1 事業の区分は、売上集計区分によっております。

2 各事業の主要な製品

- (1) 塗料事業 油性塗料及び合成樹脂塗料
- (2) 化成品事業 防疫薬剤及び工業用殺菌剤

当第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

	塗料事業 (百万円)	化成品事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高	12,896	1,304	14,200	—	14,200
営業利益	250	47	297	—	297

(注) 1 事業の区分は、売上集計区分によっております。

2 各事業の主要な製品

- (1) 塗料事業 油性塗料及び合成樹脂塗料
- (2) 化成品事業 防疫薬剤及び工業用殺菌剤

3 技術供与先から受け取るロイヤリティー収入については従来は営業外収益の「受取ロイヤリティー」に計上していましたが、第1四半期連結累計期間より売上高に含めて計上する方法に変更しております。この変更により、従来と同一の方法によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間の塗料事業の売上高及び営業利益が61百万円増加しております。

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)及び

当第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

全セグメントの売上高の合計に占める「本邦」の割合が、90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)及び

当第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

該当事項はありません。